

この部屋から、旅に出よう。

Vol.12

Platform



行こうか、相棒

ハンドルの向こうにゆめ仮想の世界



station

- VRChat : 仮想自動車学校
- cluster : City Driving
- Resonite : 阿讚サーチット
- Real.W : ジムカーナ

Platform Vol.12

Gravure: knifeakids garage4
仮想自動車学校	VRChat12
City Driving	cluster18
阿讚サーキット	Resonite24
ジムカーナ JMRC栃木茨城ジムカーナ 2024年 第3戦	Real.W30
あとがき36

第12号のテーマは「車／車両」。

VR世界にはなんとなく車好きが多い気がしますが、皆さまいかがですか？
仮想世界の車には、あのエンジン音もあの匂いもないで味気ないという意見も耳にしますが、その分現実には存在しないめちゃくちゃな車があったりします。

VR世界ではどんな走りができるのか、胸のエンジンに火をつけるきっかけになればいいなと思います。

編集長

世界には、色々な町がある。
その町ひとつひとつに、駅がある。

どの町も駅もそれぞれ違っていて、
違った人たちがいて、
そこを訪れた僕たちが抱く思いも、
きっと違うのだろう。
……VRでも、Real Worldでも。

今はまだ離れ離れの「駅」を、「町」を、
あなたへ繋ぐ線路でありたい。

——それが「Platform」



Life needs GARAGE.

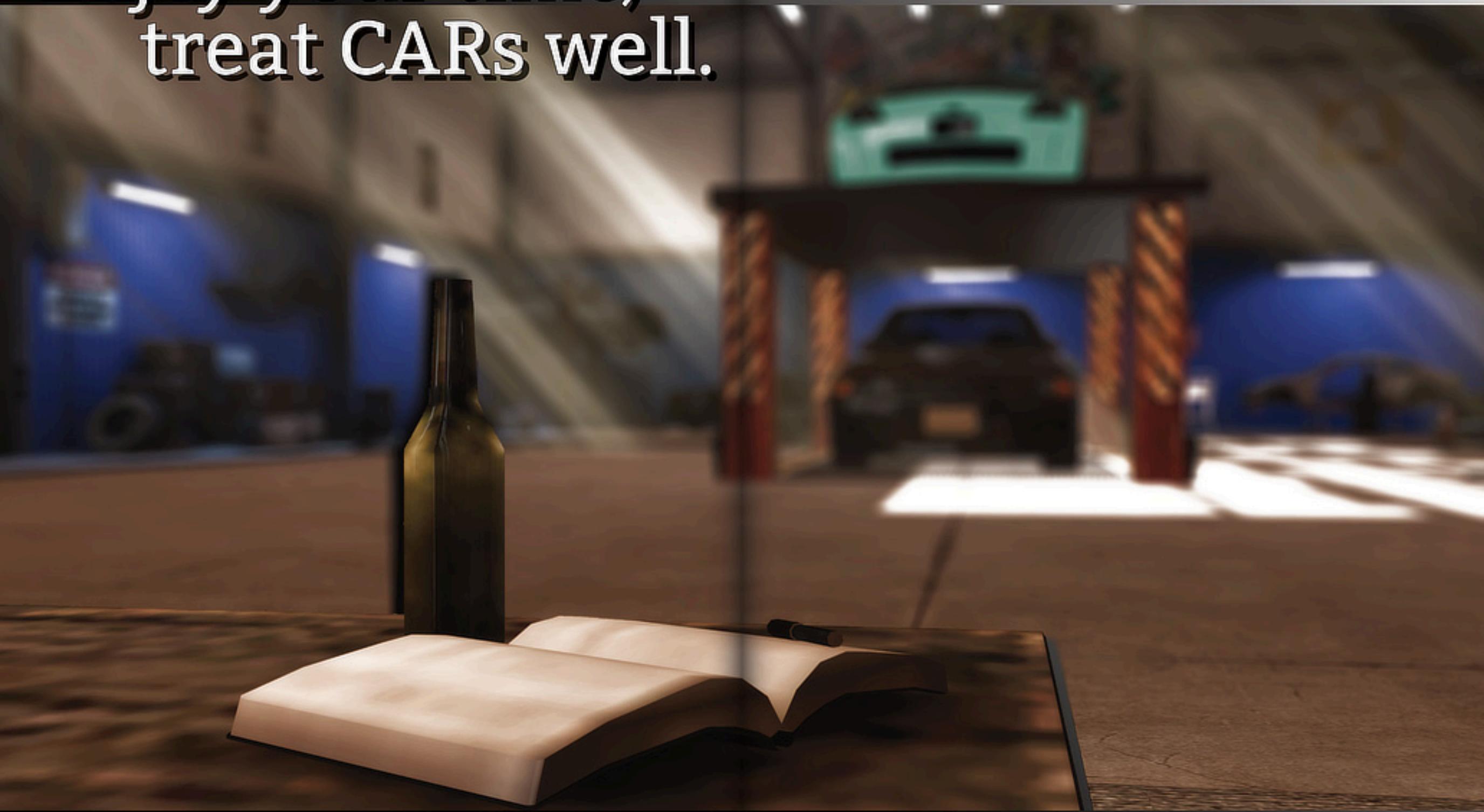


A place just for you
... and your CAR.



Let's go somewhere sunny,
somewhere cold.
After you've repaired him.

Enjoy your time,
treat CARs well.



knivezkids garage
By knivezkids



VR空間の自動車学校。擬似的に自動車の運転ができる。

仮想世界での 教習所で

今日はVRChatにある「仮想自動車学校」ってワールドに来ているよ。自動車学校って事はつまり信号機とか交差点とかがあるってこと！VRChatで車を運転できるワールドって言えばレース場だったり、ドライブデートが出来そうないい雰囲気のワールドが有名だよね。でもだからこそ逆にこういったフォーマルな感じのワールドが面白いよねって！そういうわけない？

そろそろ、私って自動車免許持つてないの。なんで持つてないのかって？だって必要ないもん。たくさん電車とかバスが走っているからね♪だから私ってリアルの自動車教習所に行つたことないんだよね！だから初めての自動車教習所が

それでそれで、そもそも自動車教習所って何があるの？というか何をする場所なの？…とりあえず受付があるのと、後は予約用のPCがあるね！これってよく聞く、その日の講義を予約したり当日予約空きが出来るのを待つたりするっていうやつ？



**仮想でも
免許を
取ろう。**

VR CHAT

仮想自動車学校
KASO DRIVING SCHOOL

写真/Tokikaze

自動車教習所って どんなんとこる?

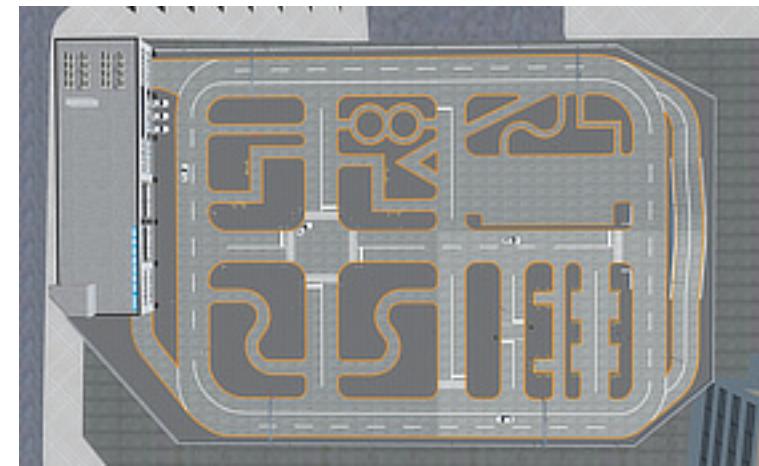
自動車教習所とは、免許に関する教習や検定を受ける場所である。教習所には運転を学ぶために必要な設備が揃えており、このワールドをVRで紹介できる。



教習車は 安定のセダン



運転席からの視野が見やすくて、安定した走りと乗り心地のある、使い勝手の良いセダン。



校内全体コースは形が良く、初めて運転する人にとって走りやすいように設計されている。



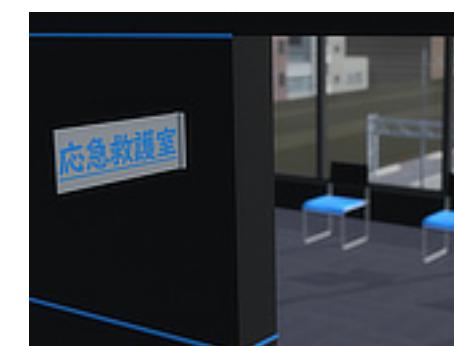
仮想自動車学校では初心者運転や違反者の講習など、この教室で行われている。



運転シミュレーター。



効果測定室。



応急救護室。



正面写真を撮影する場所。

ドキドキ
自動車講習

そろそろ運転したいんだけどそのまま前に運転シミュレーター!まあこのワールドのシミュレーターは建物の外にある自動車を遠隔操作してるんだけどね!仮想世界の中で自動車のシミュレーターを作ってるっていう何とも不思議な絵面だね

さてさて、お待ちかねの運転タイムだよ!某有名高級車っぽい見た目だけど、壁にでもぶつけたら大変なことになりそうだよな!何やるのか全然知らないけど、試験内容がすごく意地悪ってことは聞いたことがあるー!それになんかいろいろ教室あるんだね。効果測定室?あっ、ここで小テスト的な試験をするの?へえー最終試験以外にあるんだね!あとは教室がいくつかあるのと救護室?保健室つてことじゃないんだね。実際に応急処置を学ぶんだ!ちゃんとそういうのも勉強するの知らなかつたからちょっとびつくりだね!

（笑）

VRChatにはアクセルとブレーキペダルは無いから手に持つてのコントローラーでアクセルとブレーキをしてあげないといけないのがちょっと残念だね。でも運転できるってだけでちょっと感動するよな!ちゃんとハンドルを回して曲がたりするのリアルだよね!私リアル知らなきゃダメ(笑)

ちゃんとバックミラーとかサイドミラーとかあるからすごいよね!それと、意外と運転できる!なんとなく車体の位置はこらへんかなあって感覺が分かるの不思議な感じだね。運転してみて思ったけど、運転することが好きって言つている人の気持ちわかるかも!

待つてました！ 自動車運転

数々の試験にクリアした後は、はじめての自動車運転が待っている。このワールドは、リアルの教習所のコースを模しており、擬似的に自動車運転の体験ができる。



コースは現実の教習所のものとほぼ同じ。VRでも本格的に自動車運転の体験ができる。



停止、駐車、走行。ドライバーが慣れないハンドルさばきで安全運転。気をつけつつ慎重にアクセルを踏む。



**運転って
楽しいね！**

運転するの結構楽しい！それもいわゆるレース場じゃなくて、ちゃんと曲がり角があつて、信号があつて街の中を交通ルールを守りながら走るの楽しい！それにちゃんと走ろうって思つて運転するといろいろなところに気を配らないとダメなんだつてわかったのも意外な発見で面白いね！

意図せぬメタバースの利点を発見しちゃつたかも！！！これほんとに自動車教習所行く前にVRChatで車の運転を試してから教習受けた方が短時間で運転うまくなれるんじゃない？

そんな感じでいろいろ回っていたんだけどね、なんと今日の前でフレンドさんがバックでS字カーブしてるんだけど…。実際に自動車教習でやるの？って聞いたらやらないよって、どう考えたって難易度高すぎだよ！普通に前进しながらのS字カーブも道の先が見えないし乗り上げ

(文・ことはしろ)

ないように運転するの難しいのに…。そんなこと言ひながらやってみたら意外と何とかなったよ…？！途中少しだけ乗り上げちゃつたけど意外と何とかなっちやつたよ！でも現実世界で運転することがあつても絶対やらないけどね！事故っちゃうもん！

そんなこんなで今日はVRChatにある「仮想自動車学校」に来てみたよ！実際に教習所に行つたことのない私でも車の運転を体験できるし、何より教習所にいろいろな課題を試すことが出来てとも面白い経験が出来て面白かったよ！みんなもぜひ一度遊びに来てみてね！



youyou2002さんは他にもグッズの「VRChat住民票」も制作している。リアルイベントで見せ合うのも良い。

仮想自動車学校 KASO DRIVING SCHOOL by youyou2002

仮想空間で自動車の講習を擬似的に体験できるワールド。

ACCESS

ガ
ジ
ジ
ア
ン
!!



写真/neirow



はあ、ここから先が思いつかないなあ……。そういうときは「これ」に限る。ハンドル確認、アクセル確認。ブレーキは確認しない。よし！いくぞ！

オラア！アクセル全開！！時速250km！初期の新幹線「こだま」と同じ速度だオラア！突っ込め!!!!

書き出しは……と。「「メタバースでしかできないこと」が色々模索されている。例えば、時間や場所を越えて面と向かって話すかのように会議ができる点がビジネスの現場では好まれているらしいし、実際の性別に囚われないアバターの選択を行うことで「自己」の解放ができることに注目する人もいる。もちろん、本誌「Platform」もそうした「メタバースでしかできないこと」を模索する中で、「メタバース旅行」という視点を提示しているわけだ。」



(……と、ここで我に返り、冷静になろうと軽く頭をふる)

ふうーっ。落ち付いた落ち付いた。そしてそこで私を見ている君、変なところをみせたね、失礼した。今回の本誌のテーマは「車／車両」なんだが、私は車に直あまりいいものが書けそうにはないと頭を悩ませているんだよ。いやほら、なぜだかVRChatをはじめとしたメタバース界隈では、車を趣味にしている人も多いじゃないか。そういう人たちはVR内でレースをしたり、車好きで集まつてトークしたりしてたるだろ？でも私ときたら、車種も分らなければ特に思い入れもないからねえ。この難しいテーマを打破すべく、メタバースで破壊工作にいそしんでいるというわけなんだ。



法はデスクトップとVRで違うかもしれないけど、大抵どうにかなるようガイドがあるからそれをみてみてくれ。で、まずは操作に慣れるために普通に運転してみよう。VRでは重さを感じないから運転がしづらいねえ。あと、ブレーキがこうやつて……あー、やっぱり効きすぎるので、ちょっと横滑りして回転してみるのかな？ちょっと横滑りして回転してみよう。VRでは重さを感じないから運転がしづらいねえ。あと、ブレーキが

しまうか。まあいい、それをバックして元の位置にゆっくり戻して、また走りだ

そう。操作に慣れるまで何週かぐるぐると回るといい。

で、だ。操作に慣れてきたら、うーん、そうだな。単なる暴走はさつきやったから、今度は映画の主人公になろうか。ちよっと手間だけど、乗りたい車以外の車を少し動かして、障害物っぽく配置してみようか。普通の乗用車、トラック……。

トラックは後ろに置いた方がいいな。よしよし、いい感じだ。そしたら、私は今からジョン・ウイックだ。いや、トランスポーターのフランク・マーティンでもいい。シチュエーションはこうだ。今、私は「組織」の追手から逃げている。近くに止めてあつた車をパクって逃走するんだ。途中、「組織」の追手が妨害として車をぶつけて来るからそれを交わして逃げ切る。よしよし、脳内で主人公になつた私は車に乗り込み……

急速ミミミー！さつき配置した車を右ハンドルでや。と避ける！そしてすかさず逆にハンドルを切つて体制を立て直す！右！左！左！さつき配置した車たち



：いや「組織」の妨害用の車を次々と避ける！そしてトラックが見えてきた！！後ろの追手をギリギリまで引き付けて：今だッ！ハンドルを切つて、あつ、まにあわな……

あー。今回はミスったかあー。上手く

いつたと思ったんだけど。ま、ジョン・ウイックならここから戦闘開始

つてとこだな。



このストレス発散法には準備がいるんだ。まずは、車が運転できる場所、例えばちょうど今いる「City Driving」みたいな場所に行くんだ。ここだと、色々な車種の車があるから、パツと見て気に入った車があつたらそれに乗ろう。操作方法なんだ。



ガジェアツ

現実世界でやつたら確実に死ぬ危険行為を安全にできることだよ——————
それは、それは！　それは！！

だが、最近私は気づいてしまった。本当にメタバースでしかできないことは、少な
くとも1つあることに。



World:
City Driving

Felix

Created by Linx

「メタバースでしかできないこと」が色々模索されている。例えば、時間や場所を越えて面と向かって話すかのように会議ができる点がビジネスの現場では好まれているらしいし、実際の性別に囚われないアバターの選択を行うことで「自己」の解放ができるとに注目する人もいる。もちろん、本誌「Platform」もそうした「メタバースでしかできないこと」を模索する中で、「メタバース旅行」という視点を提示しているわけだ。

い？　やつてみたくなつただろ？　ならな
い？　あ、そう……。
しかしまあ、こうやつても中々原稿の
アイディアというのは出てこないねえ。
「車／車両」かあ：なにを書けばいいや
ら。





徳島県にある「阿讚サーキット」を
3Dスキャンし、フォトグラメトリ化。

サーキットで大の字になる。これぞメタバースの醍醐味。なんだつたら、複数のレースマシンが火花を散らしているレースの真っ最中であっても、堂々と大の字になれる。

現実でやつたらまず逮捕される。そもそも、サーキットのど真ん中で大の人が大の字になるなんて、恥ずかしくて実行できない。特に私は臆病なものだから、どこからともなく避けられない速度でレースマシンがやって来たらと思うと、怖くて大の字になんかなれない。

実在するサーキット場をフォトグラメトリ化。インベントリの車を持ついればVR空間でもカーレースを体験することができる。



サーキットの狭さを 思い知る



阿讚サーキット

VR PHOTGRAMMETRY ASAN CIRCUIT



写真／一兎



車内の様子。取り出した乗り物のデータはちゃんと走れる。その場でカーレースできるぞ。



乗り物のデータを持っている仲間といえば、一緒にカーレースやドライブを楽しめる。

せっかくなので、著者もフリー配布されているレーシングカーでサーキットを走ることにした。だが、いざレーシングカーに乗つてみると、MT中型免許を得した程度の知識では、操作が全く分からなかった。戸惑いながらも、ハンドルに付いているボタンを片つ端から押すうちに、レーシングカーが凄まじい馬力を出力したので、「あ、これがアクセルのボタンなのか」と納得する始末であった。



メタバースで人気なサーキットや、レースができるワールドでは、搭乗可能な自動車が設置されがちだ。故に著者は、当ワールドに入場した際に困惑した。「あれ、乗れる車がどこにもないのか？」と。

しかしここはResonite、自分が所持しているデータを直接ワールドに設置することができます。具体的には、自家用車やレーシングカーの他、トラックや戦車さえもこの阿讚サーキットに持つて来れるのだ。さらなら、某国民的ロボットの猫型ロボットが、ポケットから道具を取り出すかのように。（関係ないが、以前の号でも同じ比喩を使った気がする）



「Jのワールドは乗り物一つ置いていない。でも、レゾナイトは自分の持ち物をJにでも設置することが出来るため、乗り物を持っていればその場で走ることが出来る。まるで夢のようなシステムだ。」

自分の乗り物を持てば その場でレースだ！



乗り物は何でも走りばいい

カーレースだけでは物足りないと感じているあなたには様々な乗り物を使って楽しむことが出来る。電車や戦車、ショッピングカー、ゾウなど、変わった乗り物でのレースをぜひ楽しんでみてはいかが?



車だけではなく、電車や戦車、中にはゾウまで! なんでもありのカオスなレースも楽しめちゃう。

**特別号
フォトグラメトリ**

フォトグラメトリについてこの号で詳しく紹介されています。

BOOTH で配布中!



しかし、そうして公道では到底不可能な速度でサークルを走ってみると、どうだろ。「大の字になつて、広々とした世界を独占した気分に浸る」という妙な楽しみ方が、いかに小さな夢であったのかを思い知る。

狭いのだ、サークルが。ハンドルを大きく切っているはずなのに、コーナーが曲がれない。公道の何倍も幅があるはずなのに、数百キロメートルで走るレーシングカーでは、上手く曲がれないのだ。実際、初めてのコーナーを曲がろうとしたとき、派手にコースアウトしてしまった。

一流のレーサーが運転すれば、朝飯前と言わんばかりにコーナーを曲がれるだろう。私は素人だから、むしろ華麗に運転できる方がおかしい。こうした技量の話は、頭では分かっているつもりであつたが……運転席からの風景は、私には想像もつかなかつた。

フォトグラメトリの長所の一つは、実際の寸法を3Dデータ(メタバース空間)上に再現しやすい点だと感じる。フォトグラメトリならではの写実性、空間的特

性がなければ、私はサークルの狭さを思い知ることはなかつただろう。レーサーにならざと体感できない事象を、一部分でも自分事のように体感できるのは、まさにメタバースの利点と言えよう。

最後に余談だが、やろうと思えば阿讚サークルを戦車やトラックで走るといふ、現実世界ではまずあり得ないことも実現できる。こうしたカオス具合もまた、メタバースの特徴と言えよう。

阿讚サークル

(フォトグラメトリ)

(文・sun)





写真/Tokikaze

実はジムカーナのコースは、こうした場所に「作られる」。コース内に点々と置かれた赤いパイロン、その間こそがコースの走行ルートなのだ。全長わずか600mほどだが、パイロンが描くコースは縦横無尽。アクセル、ブレーキ、右へ左へのタイトな旋回。最高速度は80キロ以下、平均速度は30キロほどしかない。実にテクニカルな競技である。

見れば地図片手にパイロンの合間に歩く人影がちらほら。参加者が複雑なコースを歩いて確認し、走行ラインを考えるコースウォークと呼ばれる時間。ジムカーナの名物だ。それを終えて彼らが戻っていくのは、コースの隣にあるパドック。レースに出場する車を整備、待機するスペースだ。が、そこは見た目も実質

ラで、何か間違えたのかと疑念がよぎるほど。待ち時間もなく入場し、会場となるマルチコースへ。たどり着いた先はコースとは言いつつ、イメージするサーキットではなく、一見少し大きい駐車場でしかない開けた舗装面だ。「ここで本当にレースなんであるの?」と誰もが思う。

実は、私たちが普段運転するナンバー付きの乗用車がそのまま参加できる、そんな日常の隣にあるようなレースが世には存在する。それも他ならぬ日本に。その名を「ジムカーナ」という。

はたしてそうだろうか。

栃木県茂木町にあるモビリティリゾートもてぎ。二輪の世界最高峰レース MotoGP の日本GP が行われるサーキットでもあり、イベント中は会場を埋め尽くす7万人以上の人人が詰めかける。しかし私たちが訪れたその日、施設はガラガラ

レースと聞いて、皆さんはどうのを想像するだろうか。広大なサーキットのスターティンググリッド。そこに並ぶのは、様々なメーカーのロゴを背負った見慣れぬ形のレーシングカーたち。スタンド席には満員の観客。満場の歓声の中、シグナルが青へと切り替わり、歓声を搔き消す爆音とともに全車が一斉に飛び出す…想起されるのはそんな光景だと思う。レースとは非日常であり、観戦するものであり、巨大な自動車メーカーの争う場であり、普段運転するような車からは縁遠いものである…。



↑時折ルートミスやスピニンする車も。これもレースの見どころ。



軽自動車やコンパクトカーが走ったかと思えばエキシビション走行でスーパーセブンが登場。
↔まさに車の異種格闘技戦。

旗が振られ、ゼッケン1番が飛び出す。エンジンが唸りを上げ、しかし瞬く間にコーナー手前で急減速、タイヤを軋ませながらパイロンを回り込んでいく。加速減速、コースを右へ左へ、最後にはパイロンをサイドブレーキターンで1周してゴールイン。その間、わずか1分ほど。と、息をつく間もなく2番の車が飛び出していく。交錯する、タイムを告げるアナウンスと、次の走行車のエンジン

もただの駐車場。所々に積み上がったタイヤを除けば、どこにでもいそうなナンバー付きの車の間、タープやアウトドアチエアを広げ人々がくつろぐ長閑（のどか）な休日の風景がそこにある。

観客は少ない、いや皆無だ。一応 JAF (日本自動車連盟) 公認のレースだが、観客というものを想定していない。当然観戦料もない。所在なく待っていると、アナウンスとともに車両が集まってくる。ただし彼らは横並びではなく、一列に並ぶ。そう、ジムカーナは一齊に走る競技ではない。一台ずつ同じコースを走り、タイムを競うタイムアタック競技なのだ。

音。歓声も爆音も熱いデッドヒートもないが、白煙を上げるタイヤがパイロ

ンから10センチの距離を駆け抜けていくその姿は、紛れもなくこれがレースだと教えてくれる。しかし走る車はどれも公道車で、中にはコンパクトカ

ーや軽自動車、レンタル車（！）まである。出場者もベテランから初心者まで、親子二代で同じ車で出場の人などもいる。それほどに敷居が低いのだ。





ジムカーナは全国各地で年間400戦以上が開催。
きっとあなたの近場でも！JAF公式サイトから検索してみよう。

ACCESS

<https://motorsports.jaf.or.jp/>

今回取材させていただいた大会
：JMRC栃木茨城ジムカーナシリーズ(第3戦)

ACCESS

<http://tachikagyu.web.fc2.com/>

会場のモビリティリゾートもてぎにはホンダの博物館も併設。
数々の名車が並ぶ貴重なコレクションは必見。

ACCESS

<http://www.hm-museum.jp/>



敷居が低いのは観戦側も同じだ。広大なサーキットと違い、ジムカーナはコース全てを見渡せる。何台も同じコースを走るしタイムがその場でわかるので、上手い人の走り方や見所も分かりやすい。何よりとにかく機敏に走り回り、タイヤから白煙やスキール音を上げ、時には失敗しきる車が、実は自分でも運転できるものだという現実。それは非日常的な興奮と同時に、縁遠く思いがちなレースというものが実は自分の手の届く所にあると教えてくれて、観戦をより盛り上げるスペースとなる。そう、ジムカーナこそは最も日常に近いモータースポーツなのだ。

（文..思惟かね）

Gravure : knifeakids garade

撮影：一兎



仮想自動車学校 -KASO DrivingSchool-

執筆：ことはしろ
撮影：Tokikaze



City Driving

執筆：ニッソちゃん
撮影：neirow



阿讚サークット (フォトグラメトリ)

執筆：sun
撮影：一兎



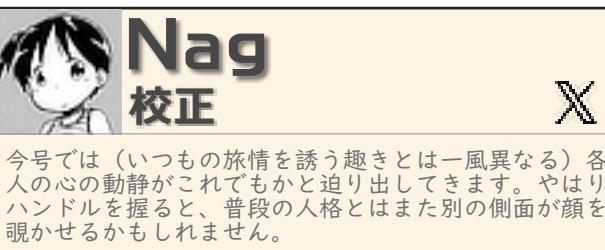
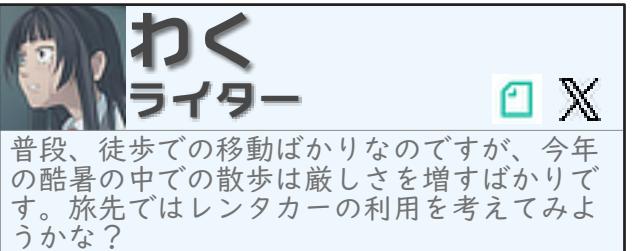
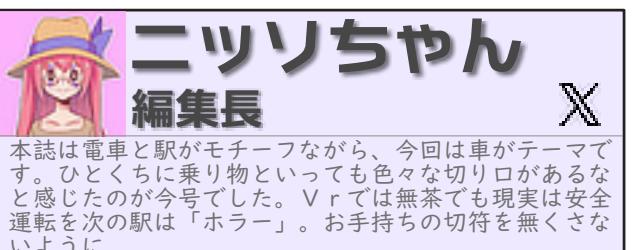
ジムカーナ

執筆：思惟かね
撮影：Tokikaze

感想などは
#Platform通信欄
へぜひお寄せください！

station

Vol.12 Platform あとがき



STAFF

編集長 | Editor Chief
ニッソちゃん

誌面デザイン | Design
思惟かね
燕谷古雅

校正 | Proofreading
Nag

執筆 | Writer
ことはしろ
ニッソちゃん
sun
思惟かね

撮影 | Photographer
一兎
Tokikaze
neirow
わく(裏表紙)

Platform Vol.12 【行こうか、相棒】

発行：Platform編集部 (platformvirtualreal@gmail.com)

初版 (2024/8/3)

< To the next JOURNEY. >

2024. 8. 3

Our
Journey
Continues...

Platform

Vol.12 行こうか、
相棒